

令和元年6月11日

小金井市子ども・子育て会議  
会長 松田恵示様  
委員各位

のびゆくこどもプラン小金井（小金井市子ども・子育て会議）における  
子どもの放課後の居場所について検討のための要望書

放課後を本気（まじ）で考えるプロジェクト  
実行委員長 市川 明  
連絡先 小金井市関野町2-4-2 1  
電話 042-316-3478

平素、委員の皆さまには、子ども子育て会議において小金井市の子どもたちと子育て中の保護者のための施策の検証とその向上のためにご尽力いただき感謝申し上げます。

私どものプロジェクトは、平成30年9月3日に、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会が実施した「子育てメッセこがねい」の分科会「こどもの放課後、心配じゃないですか？」をきっかけに、多様な立場の市民が集まって、放課後の子どもの居場所や時間の過ごし方についての学習会及びワークショップを実施し、検討をしてまいりました。平成30年度10月から2月に5回（参加者のべ人数おとな132人、子ども4人）実施し、令和元年度4月から毎月開催しております。具体的には、放課後こども教室のコーディネーター、放課後こどもプラン運営委員会の委員、おやじの会や子ども・子育てに関わる活動をしているNPO、保護者、市議会議員、行政職員等、幅広い方にご参加いただき、学びと議論を重ねております。

また、昨年12月には、「どのように放課後を過ごしたいか」というアンケートを（保護者を通じて）子どもに実施いたしました（回答数102）。

これらの活動を通じて、課題として明確になってきた主なものは、

- ・小金井では、地域でさまざまなおとなが子どもの育ちに関わっているが、それぞれの活動を横断的に把握し、子どもに情報提供したり、スタッフの人材育成をする仕組みがない。
- ・子どもたちにどのように育ってほしいか、といういわゆる「子ども観」や「子どもの育成に関わる大人が共通して持っているべき考え方や資質」等が明確でない。
- ・子どもが主体的に選んで行ける居場所が少ない。
- ・子どもが主体として、自分のことを決めるよりも、管理するおとなの都合で運営されている事業が多い。

- ・子どもが「サービス」を利用する「お客様」になってしまっている
  - ・保護者と、支援者の意識の差が大きい
  - ・安心して外遊びできる環境が減っている
  - ・親自身も、子ども時代の外遊びや自然体験が少ない世代になっている
- ということでした。

また、のびゆくこどもプラン作成のためのニーズ調査において、「放課後子ども教室を利用していない理由はなんですか。」という問いに対する回答では、「子どもが行きたがらないから」が最も多く、35.2%となっており、放課後子ども教室が、こどものニーズに合致した内容となっていないことは大きな課題であります。

これから、次の5年間の大切な計画である「のびゆくこどもプラン小金井」を策定するにあたりましては、上記のような課題を解決できるようなものを取り入れていただくことを切に望みます。

つきましては、以下のことを考慮し、のびゆくこどもプラン小金井に反映させていただけるよう要望いたします。

- 1 既存の子どもの居場所のほかに、子どもが主体的に選択できる、多様な放課後の居場所を増やしてください。実施にあたっては、子どもが歩いて行ける範囲である小学校区を単位として考えてください。
  - (例) 公民館・集会施設等の公共施設について、放課後や長期休暇中にはこどもの居場所や多世代交流スペースとして開放してください。
  - (例) 乳幼児期から親子で外遊びや野外体験ができ、小学生以上の子どもたちも安心して外遊びや自然体験ができるよう、環境整備と施策を更に進めてください。
  - (例) 学校の空き教室、校庭や体育館の地域開放にあたっては、利用団体の理解を得ながら、放課後の居場所としての活用を優先できるようにしてください。
  - (例) こどもの居場所を提供する事業に対し、市が後援すること等で、子どもや保護者が安心して利用できる仕組みを作ってください。空きスペース、空き家等を活用し、こどもの居場所を確保するという視点を持ってください。 等
- 2 放課後子ども教室の運営に関して、日常型の放課後の居場所にすることを視野に入れて、市全体で新たな枠組みと体制を構築してください。
  - (例) コーディネーターや安全管理員の人材育成や待遇改善
  - (例) 利用者である子どもや保護者の要望を取り入れるようアンケートを取ることや、放課後子どもプラン運営協議会委員に、保護者の代表を加えることなどを検討してください 等

- 3 放課後の子どもの居場所に関わる団体や事業について担当課の枠を超えて横断的に情報収集し、情報提供にあたっては、学校ごとの差異が生じないように、子ども本位の方法で情報提供に努めてください。
- 4 放課後の子どもの居場所に関わる団体や個人がつながり、情報交換や学びあいができるような仕組みを作ってください。  
(例) (仮称) こどもの居場所ネットワークをつくる  
(例) 保護者が、横(同年齢)だけでなく、縦(異年齢)でもつながれるきっかけづくり 等
- 5 小金井は、「みんなで見守る子育て」をめざして、学校・保護者だけでなく、地域の多様なおとなが放課後の子どもの育ちを見守り、はぐくむという理念を明確にし、市民に周知して実現をめざし、様々な施策を検討してください。  
理念を考えるにあたっては、「みんなで見守る子育て」実現のために、
  - ・「おたがいさま」や「おせっかい」の再評価
  - ・共育・響育(響き合って育む、子どももおとなも学び合う)
  - ・「恩送り」が当たり前をめざす等、メッセージが伝わりやすいものになるようにしてください。
- 6 子どもの育ちに関して、保護者や地域の人への啓発ならびに人材育成に努めてください。  
(例) 講演会やワークショップの実施 等
- 7 以上の項目を実現するためにも、子ども版地域包括ケアシステムや「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを推進してください。

以上